

GREEN ニュース

環境アドバイザー連絡協議会

代表 原田 邦昭

2019 年 3 月発行



群馬県環境アドバイザーの動き

(平成 31 年 3 月 20 日現在)新規登録名

第 11 期(登録期間:平成 30 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日)です。新規登録者を含め平成 31 年 1 月 20 日現在、男性 164 名、女性 80 名、合計 244 名です。

自然環境部会 113 名 温暖化・エネルギー部会 83 名、ごみ部会 77 名、広報委員会 25 名が登録し活動されています。

送付方法、メール 118 名 封書 125 名

県内の環境イベントカレンダーをご活用下さい。
<http://www.gccca.jp/volunteer/>

表紙写真

春の目覚めを感じさせる“根開き”(ねあき)という現象です。木々の根元の雪が円く解け出す光景は、冬の眠りから目覚めた木々たちが思い思いにあくびをしているようですね。

色とりどり、にぎやかな春はすぐそこです。

表紙画像・文 広報委員会 酒井義明

目次

- P2 群馬県環境サポートセンターから
 - P3 角田副代表から
 - P4 温暖化エネルギー部会からの報告
 - P5 自然環境部会からの報告
 - P6 ごみ部会からの報告
 - P7 H30 年度地域環境学習推進事業報告①
 - P8 H30 年度地域環境学習推進事業報告②
- 編集後記

群馬県環境サポートセンターからのお知らせ

日頃から当センターの事業につきまして、ご協力ご指導ありがとうございます。

さて、来る平成 31 年度も間近に迫っております。年号も変わり新たな時代が開けようとしております。

引き続き、群馬県環境アドバイザーのみなさまのご活躍を期待しております。

来年度におきましても、従来から実施しております「地域環境学習推進事業」や「子ども向け地域環境支援事業」を引き続き実施します。

地域環境学習推進事業について

年度当初に企画の募集を行う予定ですのでふるって応募いただきますようご準備のほどよろしくお願い致します。

過去 3 年間の実績は以下のページをご覧ください

[ECO ぐんま>学習環境のひろば>環境サポートセンター>地域環境学習推進事業](#)

子ども向け地域環境学習支援事業について

地域で実施される環境学習を目的として市町村、事業者、学校、自治会、PTA、青年会、その他の住民団体等が主催する学習会や各種イベント等に積極的にご参加いただき、主催者と相談のうえ申請をお願いいたします。さらには、幼稚園・保育園・児童館など向けの幼児向けのプログラムもありますのでご活用願います。

詳しくは、以下をご覧ください。

[ECO ぐんま>学習環境のひろば>環境サポートセンター>子ども向け地域環境学習支援事業](#)

群馬県ボランティア団体一覧ページについて

平成 30 年度に統合し、各団体の情報を提供していますが、ページの機能として、「新着情報」「イベントカレンダー」といった新鮮な情報の提供もしていますので、各アドバイザーさんの関わる環境関係の情報を積極的に掲載してまいりたいと考えています。ふるって情報提供してください。

[ECO ぐんまのトップページから入れます](#)

ECO ぐんま <http://www.gccca.jp/volunteer/> (外部リンク)

また、SNS (FACEBOOK) による情報提供を積極的に進めております。



地域環境学習推進事業



子ども向け地域環境学習支援事業

節電意識の定着に習い「レジ袋を削減」

いま、プラスチックごみを減らそうという取り組みが国内外で高まっています。11 年前に読んだ“レジ袋がなくなる日”という書籍に『2030 年、スーパーやコンビニのレジ袋が一斉になくなりました。石油資源の節約とごみの減量がなかなか進まないことから、ついに法律で規制しようということになったのです。』とあったことを覚えています。この予測よりもほぼ 10 年早く、既にスーパーなどではレジ袋の有料化、大手飲食店を中心にプラスチック製ストローを廃止する動きが広がっています。また、京都府亀岡市では、国内初の罰則付きプラスチック製レジ袋禁止条例の制定を、2020 年夏に施行する方針を固めました。こうした背景には、プラスチックごみによる深刻な海洋汚染が、世界各国共通の課題となっているからです。とりわけ、海洋に漂う 5 ミリ以下のマイクロプラスチックを魚が飲み込み、その魚を食べる私たちの健康に影響を及ぼすことになります。

死んだクジラの胃の中はプラスチックごみで一杯、ウミガメの鼻にストローが刺さった痛ましい有様を通じ、私たち人間に対する告発だ、とマスメディアは伝えています。

世界の多くの国でレジ袋の使用が規制されている中、環境省は昨年 10 月、2020 年度以降、レジ袋有料化を義務づける方針を示し、中央環境審議会小委員会で議論が行われているようです。

今年度行った「環境にやさしい買い物スタイルキャンペーン」におけるマイバック持参率調査の結果はおよそ 50% でした。

レジ袋削減の取り組みを浸透させる手本はあるのです。それは、東日本大震災を契機とした節電意識の定着です。“為せば成る。為さねば成らぬ何事も”です。

コンビニでお弁当とお茶を買い求めると、別々のレジ袋に入れてくれます。つまり、2 枚のレジ袋が渡されます。今後は、コンビニに行く際はマイバックを持参してみようと思います。多分、コンビニでは総菜やおでん、氷などはマイバックの汚れ防止や商品の品質・衛生面でレジ袋を勧めるものと思いますが…。

時々行く本屋やパン屋、家電量販店では、紙袋を使用しています。

「平成」残り僅かとなりました。新年度に向け思いを新たに、次々と発生する環境問題について仲間と共に研鑽し、未来につなげる取り組みを模索しながら活動してまいりたいと思います。

副代表(沼田市) 角田 和男



小学校でのごみを考える環境教室（講師は上原和枝さん）

温暖化・エネルギー部会より

自主企画学習会（講演会）「SDGs と次世代モビリティの普及の取り組みに学ぶ」

2月1日（金）16:00～18:00 サンデンホールディングス㈱ セミナールーム

温暖化・エネルギー部会では、初の定例会以外での学習会を開催しました。今回は金子副部会長の企画・運営で進められ、当初のねらい通りの大成功を収めました。企業さんとのこういった形での連携は今までになかったことですので、金子さんの企業人ならではの発想が「あらたな道」を切り拓いたと思います。

学習会の内容は二部構成で、【講演1】は県より「SDGsの概略について」と「温暖化対策に関する群馬県の政策」

についてお二人にご講演いただきました。【講演2】では「次世代モビリティの普及」について、群馬大学の次世代モビリティ社会実装研究センターの太田センター長からご講演いただきました。映像等もあり、大変興味深い内容でした。

参加者は定員オーバーの59名でしたが、その約半数は企業さんからでした。企業さんにとっても、タイムリーなテーマであったと思いますし、会場がサンデンさんというのも参加の増加につながったと思います。せっかくの今回の企業さんとのつながりを次にどう展開していけるか、これからの部会で作戦を練りたいと思います。



講演会の様子

次年度計画（温暖化・エネルギー部会）

進め方：各自がやりたいことを企画にし、そのリーダーとなる。出された企画を部会として皆で手伝いながら取り組むという手法で進める。内容とスケジュールなど皆で話し合いながら実現していく。定例会を「決定の場」と位置づける。

1. 定例会を2ヶ月に一度（奇数月）開催。

日程は直前の定例会で決定し、県からの定例案内にてお知らせする。定例会の前半を会議、後半を勉強会に当てる。次回は 5月11日（土）10時から、Mサポ会議室にて。（勉強会は「ESDとSDGsのSDについて（?）」高崎商科大の萩原先生から講話）

2. 定例会の間（偶数月）で部会メンバー提案の自由なWSや見学会など開催

第一回決定：4月7日（日）10時から「ミニソーラーWS座学部門」地球市民交流館にて

3. 今後の事業、勉強会、WSおよび見学会テーマ案について

再エネ（地熱、太陽光、風力）関連の現場や施設訪問、小水力のこと、スイシンさんの見学会、東電さんとの懇話会、電中研講演会、子どもの環境教育やESDのこと、自動運転や交通のこと、ゼロエミッションのこと等。これらについて、企画を書いて意見交換をする。メールできる方は随時企画案を投稿ください。

※メーリングリスト登録まだの方はお知らせください。marukonaga@yahoo.co.jp

温暖化・エネルギー部会長 奈賀 由香子

自然環境部会の行事は以下のようなことが主体となっています。

1. 定例会議

会場の都合などで変わる場合もありますが、原則として奇数月の第二土曜日 10 時から前橋の「元気 21」で開かれます。

内容は会の活動報告、予定のほか各地区の自然環境保護に関する行事・情報の交換。各機関からの情報などを会員に紹介するのが目的です。

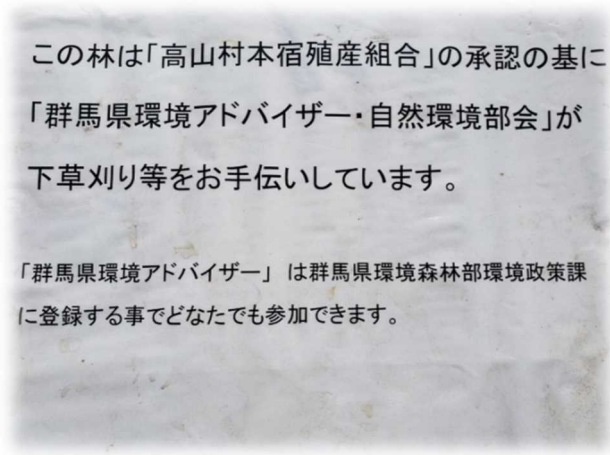
2. 研修会

研修会、視察などを必要に応じて行う。藤岡市の「チノー・ビオトープ」の見学会などを実施してきました。

3. 高山村共有林の手入れ

本会では従来から会員が一体となって活動できる「場」が欲しいとの思いがありました。そこへ前の県環境森林部長だった大木氏の仲立ちで「高山村本宿殖産組合」の共有林があまり手入れされず放置されかかっている。これの手入れを自然環境部会で行ったらどうか？とのご提案がありました。

場所は群馬天文台のそばの中山峠から北へ数百メートル下った平地で、組合の方が山桜、栗、コナラ等の若木が植林されましたが、下草や「クズ」が繁茂し木に絡みついていた。我々は刈払機程度は使いますが、基本的に「手作業」での手入れになりますが、年に5回ほど作業する事で見通しが良くなり、気持ちの良い林になりました。春には桜が咲き秋には栗拾いも楽しめる場所です。



設置看板



共有林の様子

我々の活動を紹介する「看板」も設置しました。

ところが昨年秋の台風で大きな木が何本も倒れました。看板も落ちていました。チェーンソーや重機を使う作業は出来ませんので組合と話し合いたいと思います。

自然環境部会長 田中 和夫

プラスチック廃棄物について

プラスチックは軽くて丈夫、安価で便利なプラスチック製品は巷に溢れていると言っても過言ではありません。例えば毎日新聞の塩田記者が、実験的に「脱プラスチック」生活をしてみようとスーパーに行ったが、プラスチックトレー包装が多く、食料品でプラスチックを包装に使用していない商品は、果物、野菜、缶詰位しかなかったそうです。果物、野菜、缶詰だけでも生きてはいけるでしょうが、普通の生活はできません。日本人は食料品の包装、日用雑貨から家電、自動車に至るまでプラスチックに囲まれ、プラスチック製品無しでは便利に暮らせない環境で、生活しているとも言えるのではないのでしょうか。

便利な反面、大量のプラスチック廃棄物が発生しています。一口にプラスチックと言っても、開発によりその種類は数十種以上に及びます。塩ビからポリエチレン、ナイロン、テフロン、ベークライト、シリコン等々プラスチックは種類が多く、軟らかいものや硬いものまで様々で、一括してリサイクルと言うわけにはいきません。分別してリサイクルするにはエネルギーも手間も費用も掛かり、プラスチックはリサイクルしづらい素材と言えます。

廃棄されたプラごみやマイクロプラスチックが海洋を漂っています。世界の海岸に打ち寄せるごみの 8 割以上はプラごみで、毎年世界で少なくとも 800 万トン以上が海に流失していると言われています。また 2050 年までに海に流入するプラごみの総重量が、世界の海に生息する魚の総重量を超えるとの予測もあります。クジラやウミガメ、海鳥など多くの海洋生物がプラスチックの影響下にあり、自然環境の悪化だけでなく、人体への健康被害も懸念されています。最近「プラスチック危機」という言葉が話題となっていますが、これは地球にとって危機的状況ではないのでしょうか。

プラスチックストローは、既にスターバックスやマクドナルドで、廃止の方向が打ち出されています。日本は 2017 年に約 150 万トンのプラごみを輸出しましたが、今後は相手国の同意を必要とするなど規制強化する方針です。環境省もレジ袋有料化を 2020 年までに、戦略的に打ち出すとしています。プラごみ、マイクロプラスチックの原因となっているストローやレジ袋、食品容器や包装材など消費者としては、なるべく使わない買わないことが望ましいのではないのでしょうか。消費者の心がけ次第で減らせるプラごみもあるし、企業や行政も検討する余地が大いにあると思います。

プラごみが問題なのではなく、適正な処理が必要との見方もあります。ここまで生活に浸透しているプラスチック製品、すぐに無くすことは不可能に近いと思います。それでもプラごみとなる製品をなるべく使わず買わず、リユース食器など使えるものは使い回して、プラごみを少しでも減らすことは、必要と強く感じています。

ごみ部会長 山田 一朗



みんなのごみ減量フォーラム



プラスチック製品

平成 30 年度地域環境学習推進事業

事業紹介①「水道水のできるまで」（平成 30 年 9 月 20 日実施）

私は環境アドバイザーになって 5 年、1 年位前から前リーダーの吉田さんがどうしても次のリーダーを誰かにお願いと打診していましたが、会員皆さん関心示さず、しばらくこう着状態でした。私も会に入って一番日も浅く思ってもみななかったですが、雰囲気的に自分となりやむを得ず引き受けることになりました。

今年になってから、そんな時、4 月になり県環境政策課より地域環境学習推進事業の企画募集の応募有りました。早速会員に電話で日にち、場所、時間等を連絡し集まってもらいました。

会合には前リーダーに助言してもらい（過去にあった推進事業のプリント、チラシなどを用意）、皆さんに協力をもとめました。テーマ選定では決定力不足、以前したものばかりで内容に新鮮味がなく、直ぐには決まりませんでした。

そしてようやく「発電と水道水のできるまでの仕組みを学習して環境に関心を持つ」というのがいいと決定しました。「水道水のできるまで」のテーマが決定です（見学場所の県央第一水道事務所様へは会員 OB が以前お世話にたっていたこともあり、スムーズに進むことが出来ました）。以後は 3～4 回くらい人数少ないながら会を持ち 5 月 10 日の締め切りに間に合うことができました。それから事業を推進するにあたり参加募集をしなければなりません。チラシ作成から配布、各ボランティア団体、市の広報掲載のお願い、友人知人への呼びかけ等、20 名を予定していました。ところが・・・締め切り 20 日前になってもまだ半分にも足りません、10 月初旬の見学会が迫っています、9 月の定例会で最後の呼びかけを友人知人にと、皆に呼びかけ、3 人プラスになりました。

見学会当日は会員皆さんのマイカーに分乗し会場へ行きました。天気も良く道中は興味深く思っている人もいれば、別の水道施設を見たことがあるという人もいました。当日は事務所長さんの挨拶、担当者の座学、屋外の施設など細かく説明して頂きました。皆さん質問したり興味持ったり、感心したりで、数日前に降った雨で利根川の濁った水が取水口から入り、やがてはきれいになり、ここでこの量で前橋、高崎の水道水になるのか？維持、管理、あまり管理人等居ない中で大変と思いました。2011 年 3 月の震災の時のことなども聞きました。

最後に今回私はすべてが初めてで、いちばん苦勞したのが参加人数集めでした。多すぎても少なすぎても、今後はこれを教訓にすべての取り組みにいかして行こうと思いました。当会員の皆さんご協力ありがとうございました。

環境アドバイザー富岡地区ブロック 今井 健三



研修会風景

事業紹介②

「桐生市清掃センター見学とぐんま昆虫の森で自然観察」(平成 30 年 12 月 4 日実施)

今回の研修のねらいは清掃センターを見学することによりごみの現状を把握し、ごみの減量についての関心を高めることと、ぐんま昆虫の森で昆虫や生物の状況を確認し、生物多様性の保全について関心を高め今後の活動に結びつけることです。

最初に桐生市清掃センターで施設見学を通してゴミ処理の状況を確認し、次にぐんま昆虫の森では太田市のボランティアの案内で昆虫や熱帯系植物の観察を行いました。



ぐんま昆虫の森での自然観察の様子

参加者の感想は「処理場で出た熱を利用して隣接した温水プールがあるのはうらやましい。」「ゴミ受入れ時に抜き取りで内容のチェックをしているのは良いことで削減には効果がありそう。」「昆虫の森では今回は植物が少なかったが素晴らしい施設なのでまた色々な季節に来たい。」「多くのエネルギーを使う施設(温室)をこの場所に作る必要があったか？」等の意見がありました。研修を通して参加者の関心が高まり今後の活動が活発になることが期待できます。

太田市 西村 豊

.....

編集後記

先日、建物の前で巨大なカブトムシが迎えてくれる群馬県立自然史博物館に行って来ました。生命の誕生で始まる常設展示は、すぐに、巨大な恐竜の骨格標本が動くエリアに入り、続いて群馬県の地形や動植物を紹介するエリア、ダーウィンの世界と、スケールの大きい中で身近な自然史にも親しめる面白い世界でした。

自然史博物館を訪れた本当の目的は特別展『ぐんまの自然の「いま」を考える』です。県内および周辺の自然を研究・調査した発表のポスター展示がずらりと並んでいました。高校生、大学、地域の研究者が、自然の変異や保全問題などに取り組むさまざまな発表はとても見応えがありました。

広報委員会では毎回、グリーンニュース発行にあたり、環境アドバイザーの皆様の活動紹介を取り上げていきたいと考え、委員会メンバーによる取材にもうかがいたいと思っています。また今後、個人の活動発表も企画できたら良いのではと考えています。読み応えのあるグリーンニュースを目指して、情報をお待ちしております！

広報委員会 小峯 幸子

GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年4回発行します。各号のレイアウトは2月、4月、8月、11月の編集会議で決定される予定です。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境活動推進係 環境サポートセンター 登坂

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-243-7702 E-mail:tosaka-hitoshi@pref.gunma.lg.jp